

# 國語調査委員會

明 三五・三・二四  
大 二・六・一三

## 關係部局

總務局圖書課 (明三五・三——明三六・一二)

官房圖書課 (明三六・一二——明四四・五)

圖書局第二課 (明四四・五——大 二・六)

## 予算

一〇、〇〇〇円 (明治三十五年度)

## 附 國語調査會

明三三・四・四——明三五・二・一二

## ○辭令

(明三三・四・四官報)

國語調査委員長ヲ囑託ス

(各 通)

東京帝國大學文科大学教授 文學博士 上 田 萬 年

高等師範學校教授 那 珂 通 世

國語調査委員ヲ命ス

文學博士 大 槻 文 彦

三 宅 雄 二 郎

國語調査委員ヲ囑託ス（以上四月二日付）

（明三三・四・一四官報）

國語調査委員ヲ囑託ス（四月十三日）

朝比奈知泉

德富猪一郎  
湯本武比古

○官制（明三五・三・二五官報）

〔勅令〕

朕國語調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十五年三月二十四日

內閣總理大臣

伯爵桂

太

郎

文部大臣

理學博士男爵

菊

池

大

麓

勅令第四十九號

國語調査委員會官制

第一條 國語調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ國語ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 國語調査委員會ハ委員長一人委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 委員長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 委員長ハ會務ヲ處理シ委員會ノ議長ト爲リ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

委員長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス。

第五條 國語調査委員會ニ主査委員若干人ヲ置キ委員ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第六條 國語調査委員會ニ主事一人ヲ置キ委員ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 國語調査委員會ニ書記若干人ヲ置キ委員長之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

### 附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ○辭令 (明三五・四・一二官報)

明治三十五年四月十一日

國語調査委員會委員長被仰付

正三位文學博士男爵 加藤 弘 之

東京高等師範學校長 嘉納 治 五 郎

東京帝國大學文科大學教授文學博士 井 上 哲 次 郎

文部省普通學務局長 澤柳政太郎

東京帝國大學文科大學教授文學博士 上田萬年

東京帝國大學文科大學教授文學博士 三上參次

(各通)

文部書記官 渡部董之介

東京帝國大學文科大學教授文學博士 高楠順次郎

正四位文學博士 重野安繹

正五位 德富猪一郎

從五位文學博士 木村正辭

從七位文學博士 大槻文彦

從三位 前島密

國語調查委員會委員被仰付

國語調查委員會主事ヲ命ス

國語調查委員會委員文學博士 上田萬年

(四月十一日)

○辭令

(明三五・九・二六官報)

明治三十五年九月二十五日

國語調査委員會委員被仰付

東京帝國大學文科大學教授 芳賀矢一

○國語調査委員會委員長職務規程

(明治三十五年四月九日文部大臣訓令)

國語調査委員會

國語調査委員會委員長職務規程左ノ通定ム

國語調査委員會委員長職務規程

第一條 委員長ハ主事、委員、臨時委員ノ進退ニ付文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 主事、委員、臨時委員ニ對シ手當ノ給與ヲ必要ナリト認メタルトキハ委員長ハ其ノ旨ヲ文

部大臣ニ具申スヘシ

第三條 委員長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ在官者若ハ官職ヲ有セサル

者ニ調査事務ヲ囑託スルコトヲ得

第四條 左ニ掲クル事項ハ委員長ニ於テ專行スヘシ

一 會務ノ整理上必要ナル細則ヲ定ムルコト

二 雇員ノ進退ニ關スルコト

三 主事、委員、臨時委員、囑託員、書記及雇員ノ除服出仕及請暇ニ關スルコト

四 諸規則及報告等ノ印刷ニ關スルコト

五 右ノ外委員會ノ常務ヲ處理スルコト

第五條 前條ニ掲ケタル事項ノ外總テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ施行スヘシ

第六條 主査委員及書記ノ命免ハ其ノ都度文部大臣ニ報告スヘシ

○辭令 (明三五・二・一二官報)

明治三十五年二月八日

國語調査委員長囑託ヲ解ク

(各 通)

東京帝國大學文科大學教授

文學博士 上 田 萬 年

高等師範學校教授

文學博士 那 珂 通 世

國語調査委員ヲ免ス

文學博士 大 槻 文 彦

文學博士 三 宅 雄 二 郎

(各 通)

德 富 猪 一 郎

湯 本 武 比 古

朝 比 奈 知 泉

國語調査委員囑託ヲ解ク

○國語調查委員會決議事項 國語調查委員會ハ本年四月ヨリ同六月ニ涉リテ九回委員會ヲ開キ其調

査方針ニ就キテ左ノ如ク決議セリ(文部省)

一 文字ハ音韻文字(「フオノグラム」)ヲ採用スルコト、シ假名羅馬字等ノ得失ヲ調査スルコト

二 文章ハ言文一致體ヲ採用スルコト、シ是ニ關スル調査ヲ爲スコト

三 國語ノ音韻組織ヲ調査スルコト

四 方言ヲ調査シテ標準語ヲ選定スルコト

本會ハ以上四件ヲ以テ向後調査スヘキ主要ナル事業トス然レトモ普通教育ニ於ケル目下ノ急ニ應ゼンカタメニ左ノ事項ニ就キ別ニ調査スル所アラントス

一 漢字節減ニ就キテ

二 現行普通文體ノ整理ニ就キテ

三 書簡文其他日常慣用スル特殊ノ文體ニ就キテ

四 國語假名遣ニ就キテ

五 字音假名遣ニ就キテ

六 外國語ノ寫シ方ニ就キテ

(明三六・八・一九官報)

○國語調查委員會事項 昨三十五年四月ヨリ去月ニ至ル國語調查委員會ニ於ケル議案及審議ノ事項  
並ニ參考資料等左ノ如シ(文部省)

國語調查委員會議案(明治三十五年四月ヨリ同三十六年七月ニ至ル)

一 會議略則

二 國語調查方針

三 國語調查方針第一回整理案

四 字音表記法

五 國語調查方針第二回整理案

六 第一號文部大臣諮問案

字音書キ方ニ關スル事項

國語書キ方ニ關スル事項

文法上許容ニ關スル事項

七 同上諮問案ニ對スル特別委員修正案

(上田萬年外ニ特別委員)

八 國語調查方針第三回整理案



九 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

(委員 大槻 文彦)

一〇 同上

文法上許容ニ關スル事項

(委員 渡部 董之介)

一一 同上

「ヒーラヒラ」「ピーカピカ」等ノ長音表記ニ關スル件

(委員 渡部 董之介)

一二 漢字省減案(第一)

一三 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

「てにをは」「ト」ヲシテ動詞助動詞ノ連體言ノ下ニ「コト」ヲ略シタリト見做スヘキ場合  
ニ於テ直ニ其動詞助動詞ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシト認ムル件

(委員 芳賀 矢一)

一四 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

「てにをは」「ト」ヲシテ動詞形容詞助動詞ノ連體言ヲ受ケシムトモ妨ナシト認ムル件

(委員 渡部 董之介)

一五 假名遣改正ニ關スル件

(委員 大 槻 文 彦)

一六 漢字省減案ニ對スル特別委員修正案 (重野安繹外ニ特別委員)

一七 「タイプライター」用平假名片假名竝ニ符號ニ關スル件 (文部省文書課長ヨリ調査方依頼)

一八 第一號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

指定ノ「てにをは」ノ「ト」竝ニ過去助動詞ノ「キ」ニ關スル件 (渡部董之介外ニ特別委員)

一九 第二號文部大臣諮問案

國語假名遣ニ關スル事項

二〇 第二號文部大臣諮問案ニ對スル修正案

國語假名遣中許容ニ關スル件

(委員 芳 賀 矢 一)

二一 同上

國語假名遣に關する件 (同上)

二二 第二號文部大臣諮問案ニ對スル特別委員修正案

(大槻文彦外四特別委員)

二三 同上 追加案

二四 第一號文部大臣諮問案ニ對スル第一回整理案

二五 同上第二回整理案

二六 同上追加案

文法上許容スヘキ事項ノ第七、第十二ニ加フヘキ例 (主査委員大槻文彦)

二七 漢字省減案(第一) 中、うらむらくは、おもふに、おもへらく、こひねがはくは等ノ語性調

査ニ關スル件 (木村正辭外四特別委員)

二八 音韻調査ニハ主トシテ「ローマ」字ヲ使用スヘキ議 (主査委員 上田萬年)

二九 長音ノ表記ニ關スル件 (同上)

三〇 代名詞制定案

三一 送假名法案

三二 漢字省減整理案(第一)

三三 尊卑ニ就テ代名詞ト動詞助動詞トノ用法 (主査委員 大 槻 文 彦)

三四 送假名法ニ關スル特別委員修正案 (渡部董之介外四特別委員)

三五 送假名法修正案 (委員 芳 賀 矢 一)

諸調査材料並諸報告書類目錄

一 片假名、平假名 書方讀方ニ關スル心理的實驗報告 (臨時委員元良勇次郎外一人)

二 假名羅馬字兩說ノ優劣比較 (補助委員 大 矢 透)

三 國語假名遣法調査材料第一報告

濁音ジ、ヂ、ズ、ヅニ關スル件

(補助委員 大 矢 透)

四 明治年間ノ國語調査ニ關スル事項年表

(補助委員 大 矢 透)

五 國語假名遣法調査材料第二報告

長音ノ如クニ呼ブ音ヨリ成レル語調

(補助委員 大 矢 透)

六 岡山、廣島、香川、愛媛四縣下方言取調報告

(補助委員 岡 田 正 美)

七 佛蘭西ノ語法ノ簡略ニ關シタル一千九百一年二月二十六日文部省令 (翻譯)

八 明治三十五年四月ヨリ 國語調査委員會二十七回分議事速記録 (三十冊)  
同三十六年七月ニ至ル

委員以下ヨリ提出ノ參考書類 (明治三十五年四月ヨリ同三十六年七月ニ至ル)

一 「ー」假名ニツキテノ意見

(補助委員 大 矢 透)

二 と、とも、又ハど、どもヲ單ニもトスルニツキテノ意見

(補助委員 岡 田 正 美)

三 といふト云フ語ノ代リニ單ニなるト云フ語ヲ用キルコトノ不都合ナル例

(補助委員 岡 田 正 美)

四 長音符「ー」ヲ記入シタル假名文印刷見本

五 國語假名遣ニ關スル文部大臣ノ諮問案ニ對スル參考書

六 ン、ツ、ー等ニ關スル調査案

(主査委員 大槻 文彦)

七 長音符拗音符促音符等ニ關スル一覽表

(補助委員 岡田 正美)

八 加行延音動詞用例竝ニ右用例ニツキテノ意見

(補助委員 新村 透)

九 音韻調査上所用ノ「ローマ」字書キ方案

(補助委員 新村 出)

一〇 佐賀縣外二縣各小學校生徒ノ長音表記ニ關スル調査報告書

(補助委員 保科 孝一)

一一 外國地名及人名ノ書キ方及讀ミ方取調委員ノ調査報告中書キ方ニ關シテ取調フヘキ事項

(補助委員 新村 出)

一二 送假名法起草ニツキテ取リタル方針

一三 漢字省減案整理ニ關スル方針

一四 待遇ニ依リテ違フル語遣ノ表

(補助委員 岡田 正美)

起草委員會議案

明治三十五年四月ヨリ  
同三十六年七月ニ至ル

一 字音表記法

(補助委員 保科 孝一)

二 國語表記法

(同上)

三 文法改正案

(同上)

四 字音表記法整理案

(同上)

五 漢字省減案(第一)

(同上)

六 國語調査方針

(同上)

七 同上修正案

(主査委員 上田 萬年)

八 漢字省減案(第二)

(補助委員 保科 孝一)

九 國語調査方針ニ關スル修正案

(補助委員 岡田 正美)

一〇 同上

(主査委員 大槻 文彦)

一一 國語表記法整理案

(補助委員 保科 孝一)

一二 母音ニ關スル調査案

(補助委員 新村 出)

一三 漢字省減第一回整理案(第一)

(補助委員 林 泰輔)

一四 聲音ノ寫シ方及語學上ノ用語例

(補助委員 新村 出)

一五 漢字省減第二回整理案(第一)

(補助委員 林 泰輔)

一六 音韻組織調査方案

(補助委員 新村 出)

一七 漢字省減調査方針

(補助委員 林 泰輔)

一八 假名遣改正案

(主査委員 大槻 文彦)

一九 語法改正案

(同上)

二〇 送假名法案

(補助委員 岡田正美)

二一 發音調査ニ關スル事項

(補助委員 新村出)

二二 「タイプライター」ニ用キル假名文字竝ニ符號ニ關スル件 (文部省文書課長ヨリ調査方依頼)

二三 外國地名及人名ノ稱ヘ方及書キ方ニ付文部省取調委員ノ調査報告中書キ方ニ關シテ審議スヘキ事項

(補助委員 新村出)

二四 文法上品詞ノ名稱竝ニ分類ノ改定ニ關スル件 (補助委員 岡田正美)

二五 代名詞ノ制定ニ關スル件 (主査委員 大槻文彦)

二六 方言蒐集方案 (補助委員 保科孝一)

二七 漢字省減案(第一)中副詞表 (補助委員 林泰輔)

二八 方言蒐集方案目錄 (補助委員 保科孝一)

二九 代名詞ノ制定ニ關スル整理案 (主査委員 大槻文彦)

三〇 送假名法起草ニツキテ取リタル方針 (補助委員 岡田正美)

三一 方言蒐集方案ニ對スル修正案 (同上)

三二 漢字省減案(第一)整理方針 (補助委員 保科孝一外一名)

三三 代名詞制定案ヲ定ムルニ就イテノ方針 (主査委員 大槻文彦)

三四 漢字省減案(第一) 中、副詞表ニ對スル修正案

(補助委員 保科孝 一外一名)

三五 土音方言取調ニ關スル事項

(主査委員 大槻文彦)

三六 送假名法別案

(主査委員 芳賀矢一)

(明治三六・九・一六官報)

○音韻竝口語法調査事項 國語調査委員會ニ於テハ國語調査資料蒐集ノタメ別記音韻竝ニ口語法取

調ニ關スル事項ニ照シ其地方ノ音韻並ニ口語法調査方ヲ各府縣知事ニ依囑シタリ

(別記) 略

(明三八・三・八官報)

○國語調査委員會ニ於ケル文部次官演述 今般國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ關シ

文部大臣ヨリ國語調査委員會ニ諮問シタルニ付キ本月三日開會ノ同委員會ニ於テ文部大臣ニ代リ

文部次官ノ演述シタル要領左ノ如シ(文部省)——七三ページ參照——

明治三十三年八月小學教育ニ於ケル新定字音假名遣法制定以來教育者間ニ於テハ國語假名遣ニモ



字音假名遣ノ如ク學習ニ困難ナルモノ多キノミナラス字音假名遣ノミ發音的ニシテ國語假名遣ノミ全然舊來ノ假名遣ヲ墨守スルコト教育上不便ナレハ國語假名遣ニ關シテモ何分ノ改正ヲ加ヘクシトハ教育社會一般ノ希望ナルカ如クニシテ是レ誠ニ道理アル希望ナリト信ス是ヲ以テ明治三十六年中國定教科書編纂着手ノ當初國語假名遣ノ改正ニ關シ前任大臣ヨリ本會ニ諮問シタルニ本會ハコノ事タル關係スル所頗ル廣ク隨テ慎重ノ審議ヲ要スヘキモノナレハ追テ假名遣全部改定案ヲ具申スルマテハ姑ク從來ノ儘ニ差置カレタシトノ意見ヲ提出セラレタレハ現行ノ國定教科書ハ此意見ニ從ヒ編纂セシメタルモノナリ

然ルニ國定教科書モ追テ修正ヲ加フルノ必要アリ昨年來教科書調查委員會ヲ組織シテ既ニ修正ノ調査ニ着手セシメタリ該修正ニ關シテハ假名遣ノ問題ノ如キハ最モ先キニ解決ヲ要スヘキモノニシテ同調查委員會ニ於テモ慎重ノ調査ヲナシクル上國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ關シ報告スル所アリタリ依テ之ヲ取りテ本會ニ諮問シタル次第ナレハ實際ノ須要ニ鑑ミ十分ノ審議ヲ經テ何分ノ答申アランコトヲ望ム尤モ本問題ハ教育上頗ル重大ナル問題ナレハ本月下旬ニ於テ開會スヘキ高等教育會議ニ向ヒテモ同様ノ諮問ヲ發シ置キタルニ付之ヲ諒知セラレクシ

#### 國語調查委員會調查發表事項

書名

冊数 発行年月 調査者

國語國字改良論說年表

(一冊) 明治三十七年四月

片假名平假名讀ミ書キノ難易ニ關スル實驗報告

(一冊) 明治三十七年四月  
元良勇次郎  
松本亦太郎

方言採集簿

(一冊) 明治三十七年十月  
保科孝一

假名字羅馬字優劣論比較一覽

(謄寫版刷一枚非賣品)  
明治三十七年十一月

音韻調查報告書(二冊)音韻分布圖(二十九枚)

明治三十八年三月  
上田萬年、新村出  
龜田次郎、榊原叔雄

假名遣諮問ニ對スル答申

(一冊非賣品)  
答申 明治三十八年十一月二十一日  
發行 明治三十八年十二月

現行普通文法改定案調查報告之一

(二冊) 明治三十九年二月  
大矢透

口語法調查報告書(一冊)口語法分布圖(三十七枚)

明治三十九年十二月  
岡田正美、保科孝一  
新村出、龜田次郎  
神田城太郎、榊原叔雄

送假名法

(一冊) 明治四十年三月  
芳賀矢一

漢字要覽

(一冊) 明治四十一年五月  
林泰輔

假名遣及假名字體沿革史料

(一冊) 明治四十二年三月  
大矢透

口語體書簡文ニ關スル調查報告

(一冊) 明治四十四年四月  
保科孝一

假名源流考・假名源流考證本寫眞

(二冊) 明治四十四年九月  
大矢透

平家物語につきての研究

前編 平家物語考  
後編 平家物語の語法上下

(三冊) 明治四十四年十二月  
大正三年十二月  
山田孝雄

疑問假名遣 前編 學說の部  
後編 實例の部

周代古音考及韻徵

口語法

口語法別記

(三冊) 大正 四年九月 本居 清造

(三冊) 大正 三年六月 大矢 透

(二冊) 大正 五年十二月 大槻文彦、上田萬年、  
芳賀矢一、藤岡勝二、  
大矢 透、保科孝一

(二冊) 大正 六年四月 大槻 文彦

### ○官制廢止 (大二・六・一三官報号外)

〔勅令〕

朕國語調査委員會官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正二年六月十三日

內閣總理大臣 伯爵 山 本 權 兵 衛

文部大臣 法學博士 奥 田 義 人

勅令第七十八號

國語調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# ○豫算

## 明治四十一年度 國語調査委員會豫算明細書

科 目	四十一年度要求額	四十年 度 豫 算 額	比 較	差
第十六款 臨時調査費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇	〇
第一項 國語調査費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇	〇
第一目 國語調査費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇	〇

明治三十五年勅令第四十九號國語調査委員會官制參看

第一節 諸 給	六、九七〇	内	譯
起草委員	三人	八〇〇	二、四〇〇
調査委員	一〇	三〇〇	三、〇〇〇
臨時委員	五	二〇〇	一、〇〇〇
書記	二	三〇	六〇
雇 員	二	一〇〇	二八八
給 仕	一	一五〇	五五
臨時傭人	三三四	五〇〇	一六七

第二節	備品費	三二〇
第三節	圖書及印刷費	一、二二〇
第四節	消耗品	三五五
第五節	內國旅費	五〇〇
第六節	雜費	六三五

(明治四十一年度文部省所管  
歳入歳出豫算各目明細書 文部省 百二十八頁)

## ○〔補遺〕

明治三十八年二月國語調查委員會  
並ニ高等教育會議へ諮問ノ

國語假名遣改定案 — 六八ページ参照 —

### 國語假名遣改定案緒言

- 一 本案ノ改定假名遣は口語文語共ニ適用スルモノトス
- 二 本案ノ改定假名遣ハ現行ノ國定小學校教科書大修正ノ場合ニ實行スルモノトス
- 三 本案ノ改定假名遣ハ中等教育ノ學校教授上ニモ實行センコトヲ期ス
- 四 本案ノ改定假名遣實行ニ伴ヒ五十音圖中阿行ノおハをニ改メわ行ノゐハハニ改ム

(國語假名遣改定案 略)

○國語假名遣改定案答申

本年二月二十七日附已發圖六三號ヲ以テ本會ニ御諮問相成候國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ對シ本會ニ於テ爾後二十一回委員會ヲ開キ別紙諮問案中朱書ノ通り修正致候尙ホ國語及字音假名遣統一上ノ必要有之新舊假名遣對照表第一號乙字音ノ部ノ如ク明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第二號表ヲモ修正増補致候茲ニ議事及整理上ノ主要ナル事項及新舊假名遣對照表一冊國語假名遣改定案字音假名遣ニ關スル事項ノ修正案一冊相添此段及報告候也

追テ本案假名遣御實行ノ際ニハ簡易ナル口語文法（本會ニテ目下調査中）及新舊假名遣對照語彙（文部省圖書課ニテ目下調査中）ヲ前以テ若クハ同時ニ御發表相成候様希望致候

明治三十八年十一月二十一日

國語調査委員會委員長

文學博士 男 爵 加藤 弘 之  
法學博士

文部大臣 久保田 讓 殿

（答申案 略）

假名遣諮問ニ對スル答申書

文部大臣官房圖書課（明三八、一二、二四發行）

（國語調査委員會・高等教育會議・帝國教育會の答申）

# 臨時假名遣調査委員會

明四一・五・二三  
明四一・一二・一二

主管 官房圖書課

## ○官制 (明治四一・五・二五官報)

### 〔勅令〕

朕臨時假名遣調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十一年五月二十三日

内閣總理大臣 侯爵 西園寺公望  
文部大臣 男爵 牧野伸顯

### 勅令第三百三十六號

第一條 臨時假名遣調査委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ國語及字音ノ假名遣ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 臨時假名遣調査委員會ハ委員長一人及委員二十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長及委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三條 臨時假名遣調査委員會ニ主事一人ヲ置キ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第四條 臨時假名遣調査委員會ニ書記二人ヲ置キ文部省判任官中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○辭令 (明治四一・五・二五官報)

從三位勳二等理學博士 男爵 菊池大麓  
臨時假名遣調査委員會委員長被仰付(内閣)

正三位勳一等 子爵 曾我祐準

正三位勳一等 男爵 松平正直

正三位勳一等 淺田德則

從三位勳二等 小牧昌業

從三位勳三等 理學博士 山川健次郎

從三位勳四等 子爵 岡部長職

正四位勳三等 矢野文雄

從四位勳二等功三級 醫學博士 森林太郎

從四位勳二等 法學博士 岡野敬次郎

從四位勳二等 小松謙次郎



(各通)

從四位勳三等 文學博士 井上哲次郎

從四位勳四等 文學博士 上田萬年

正五位勳三等功三級 伊知地彥次郎

正五位勳四等 伊澤修二

正五位 德富健次郎

正五位勳四等 橫井時雄

正五位 文學博士 芳賀矢一

從五位 松村茂助

正六位勳四等 島田三郎

從六位 藤岡好古

從七位 文學博士 犬槻文彥

勳四等 江原素六

鎌田榮吉

文學博士 三宅雄二郎

臨時假名遣調査委員會委員被仰付(内閣)

從五位勳五等 渡部董之介

臨時假名遣調査委員會主事被仰付（内閣）

○辭令（明四一・五・二九官報）

明治四十一年五月二十八日

臨時假名遣調査委員會委員被仰付（内閣）

正五位勳四等 肥 塚

龍

### ○諮問案

申發圖

別紙假名遣ノ件ニ關シ其ノ會ノ意見ヲ問フ

明治四十一年五月二十八日

文部大臣 男爵 牧 野 伸 顯

假名遣ノ件

### 緒 言

- 一 本案ノ假名遣ハ文部省ニ於ケル教科書檢定及ヒ編纂ノ場合ニ之ヲ許容スルモノトス
- 二 本案ノ實行ト同時ニ明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第二號表ヲ廢ス

第一章 字音假名遣二關入ル事項

舊	假	名	遣	新假名遣	舊	假	名	遣	新假名遣	舊	假	名	遣	新假名遣
い	ゑ	を	くゑ	あふ	を	う	かう	くわう	がう	さう	ざう	たう	だう	
ゐ	ゑ	を	くゑ	あふ	を	う	かう	くわう	がふ	さふ	ざふ	たふ	だふ	
				わう			こう	こふ	ごう	そう	ぞう	とら	どう	
い	え	お	け	げ	お	う	こう	ごう	そう	ぞう	とら	どう		
なう	はう	ぼう	ぽう	まう	ゆう	やう	らう	きやう	ぎやう	しやう	じやう	ちやう	ぢやう	にやう
なふ	はふ	ばふ	ぽふ	もう	いう	よう	らふ	きよう	ぎよう	しよう	じよう	ちよう	ぢよう	によう
のう	ほう	ぼう	ぽう		いふ	えう	ろう	けう	げう	せう	ぜう	てう	でう	ねう
	ほふ	ぼふ	ぽふ			えふ		けふ	げふ	せふ	ぜふ	てふ	でふ	ねふ
のう	ほう	ぼう	ぽう	もう	ゆう	ぎう	しう	じう	ちう	ぢう	りう	あむ		
ひやう	びやう	ぴやう	みやう	りやう	きう	ぎう	しう	じう	ちう	ぢう	りう	あむ		
ひよう	びよう	ぴよう	めう	りよう	きゆう	ぎふ	しゆう	じゆう	ちゆう	ぢゆう	にゆう	あむ		
へう	べう	ぺう		れう	きふ	しふ	じふ	ちふ	ぢふ	にふ	あむ			
ひよう	びよう	ぴよう	みよう	りよう	きう	ぎう	しう	じう	ちう	ぢう	りう	あむ		
ひよう	びよう	ぴよう	みよう	りよう	きう	ぎう	しう	じう	ちう	ぢう	りう	あむ		

其他語尾ノ撥音ニ  
あん むん ヲ 區別スルモ  
ノ皆之ニ準ス

## 第二章 國語假名遣ニ關スル事項

一。ゐ、ゑ、をノ假名ニハい、え、おノ假名ヲ用フ但シ動詞ノ活用ヨリ起ルゐ、ゑ及ヒ弓爾遠波ノをヲ除ク又ゑふ(醉)ノゑニハよヲ用フ

いのしし<sup>キ</sup>(猪)

こえ<sup>エ</sup>(聲)

おけ<sup>テ</sup>(桶)

但書ノ例

ひきゐる(牽)

うる<sup>ル</sup>(植)

二。わ、い、う、え、おト發音スルは、ひ、ふ、へ、ほノ假名ニハわ、い、う、え、おノ假名ヲ用ヒおト發音スルふノ假名ニハおノ假名ヲ用フ但シ左ノ場合ヲ除ク

(1) 弓爾遠波ノは及ヒ弓爾遠波ノ關係竝ニ動詞ノ活用ヨリ起ルは

(2) 動詞ノ活用ヨリ起ルひ

(3) 動詞ノ活用ヨリ起ルふ

(4) 弓爾遠波ノへ、さへ、及ヒ弓爾遠波ノ關係竝ニ動詞ノ活用ヨリ起ルへ

(5) 副詞なほノほ

例

いわ<sup>ハ</sup>(岩)

うぐいす<sup>ヒ</sup>(鶯)

あやうし<sup>フ</sup>(危)

いえ<sup>ト</sup>(家)

かお<sup>ホ</sup>(顔)

たおす<sup>フ</sup>(倒)

但書の例

もしくは<sup>ハ</sup>(若)

あらは<sup>ハ</sup>(洗)

あらひ<sup>ハ</sup>(洗)

あらふ<sup>ハ</sup>(洗)

あまつさへ<sup>ハ</sup>(剩) あらへ<sup>ハ</sup>(洗)

三。阿列ノ假名ニふ、うガ附キ又ハ於列ノ假名ニほガ附キテ於列ノ長音ニ發音スルモノハ於列ノ假名ニうヲ附ス但シ左ノ場合ヲ除ク

(1) 動詞ノ活用ヨリ起リ阿列於列ノ假名ニふノ附ク場合

(2) 動詞形容詞ノ語尾ノ音便ニ依リ阿列ノ假名ニうノ附ク場合

(3) 動詞ヲ國語ニテ未來ニ用フルニ依リ阿列ノ假名ニうノ附ク場合

例

おうぎ<sup>アフ</sup>(扇)

こうがい<sup>カウ</sup>(筭)

おうかみ<sup>オホ</sup>(狼)

但書の例

あたふ<sup>ハ</sup>(與)

とふ<sup>ハ</sup>(問)

かうて(買)

あかう(赤)

いのらう(將祈)

四。字音ヲ假リテ國音ヲ表記シタルモノノ變化セシモノ及ヒ素ト字音ニシテ國音ノ例ニ依リテ變化セシモノハ前諸項ノ例ニ依ル

例

あわ(阿波)

まきいちわ(薪一把)

## 理 由 書

假名遣ノ法則中學習上困難ナルモノヲ簡約ニシテ國語教育ノ發達ヲ圖ルカ爲明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第二號表ヲ以テ其最モ複雑ナル字音假名遣ニ改正ヲ加ヘタリ例ヘハ均シク「コー」ト發音スル假名遣ニ「カウ」(校)、「カフ」(甲)、「コウ」(公)、「コフ」(劫)、等ノ別アリシモ之ヲ止メテ「コー」ニ一定シ又均シク「ホー」ト發音スル假名遣ニ「ハウ」(方)、「ハフ」(ホフ)(法)、「ハウ」(奉)ノ別アリシモ之ヲ止メテ「ホー」ニ一定シタルノ類ナリ然ルニ爾來教育ノ實驗ニ依レハ兒童ニ於テ字音ト國語トヲ區別スルコト困難ナルカ爲ニ知ラス識ラス字音ノ表記法ヲ國語ニ及ホシ例ヘハ「カウモリ」(蝙蝠)ノ「カウ」、「ハウムル」(葬)ノ「ハウ」ノ如キハ字音ニアラサルニ拘ラス之ヲ字音ノ「コー」「ホー」ト同視シテ「コーモリ」「ホームル」等ノ如ク表記スルノ

混雜ヲ生シタリ加之國語假名遣ニ於テモ「カハ」(川)、「ウグヒス」(鶯)、「アヤフシ」(危)、「イヘ」(家)、「カホ」(顔)等ノ「ハ」「ヒ」「フ」「ヘ」「ホ」又ハ「アフギ」(扇)、「クウゲ」(峠)等ノ「アフ」「クウ」ノ如ク發音ニ一致セサル假名遣尠カラス之カ學習ノ困難字音假名遣ニ讓ラサルモノアリ依テ國語假名遣モ亦字音假名遣改定ト同一ノ趣旨ヲ以テ速ニ之ヲ整理スルノ必要ヲ認メ同時ニ曩ニ定メタル字音假名遣ニモ統一上更ニ多少ノ變更ヲ施スヲ可トシタリ

前記小學校令施行規則第二號表ノ字音假名遣ハ之カ實行ヲ小學教育上ニノミ限り中等教育ニ於テハ依然舊來ノ假名遣ヲ強テ學習セシメタルモ假名遣ノ如キハ教育ノ階級ニ依リテ截然限界ヲ畫スヘキニアラス加之何レノ階級ノ教育ニ於テモ舊假名遣ヲ株守シ又ハ新假名遣ヲ強制スルコトナク新舊竝行セシメ自然ノ淘汰ニ一任スルヲ可トス依テ本案ノ假名遣ハ曩ニ定メタル文法上許容スヘキ事項ト均シク諸敎科書ノ檢定又ハ編纂ノ場合ニ關シ廣ク之ヲ應用セントス

### ○官制廢止(明四一・一二・一四官報)

〔勅令〕

朕臨時假名遣調査委員會官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治四十一年十二月十二日

內閣總理大臣 侯爵 桂 太 郎

文部大臣

小松原英太郎

勅令第三百十二號

臨時假名遣調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス



# 臨時ローマ字調査會

昭五・一一・二五  
昭一一・六・三〇

關係部局 圖書局編修課

○官制 (昭五・一一・二六官報)

〔勅令〕

朕臨時ローマ字調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和五年十一月二十五日

內閣總理大臣臨時代理	外務大臣	男爵 幣原 喜重郎
	文部大臣	田 中 隆 三

勅令第二百二十二號

臨時ローマ字調査會官制

第一條 臨時ローマ字調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ國語ノローマ字綴方ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 調査會ハ會長一人及委員三十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アル時ハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條 文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ調査會ノ請求アリタルトキハ適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條 調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 調査會ニ幹事長一人及幹事若干人ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事長ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條 調査會ニ書記若干人ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官制廢止（昭一一・七・一官報）

朕臨時ローマ字調査令官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和十一年六月三十日

內閣總理大臣 廣 田 弘 毅

文部大臣 平 生 鈺 三 郎

勅令第四百四十四號

臨時ローマ字調査會官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時ローマ字調査事議會規則（文部省令 昭和五年十二月十六日）

第一條 會議ハ會長之ヲ招集ス

第二條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

第三條 會議ハ會長、委員及臨時委員ヲ合セ其半數以上出席スルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第四條 議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 會議ハ公開セス

第六條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 議事ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

會長可否ノ數ニ加ハリタルトキハ之ヲ出席委員ト看做ス

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第八條 會長必要ト認ムルトキハ委員及臨時委員ノ中ヨリ主査委員ヲ選定シ審査ヲ爲サシムルコトヲ得

主査委員ハ其互選ニ依リ委員長ヲ置ク

主査委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ會議ニ報告スヘシ

主査委員會ニハ本則ノ規定ヲ準用ス

○辭令 (昭五・一一・二七官報)

昭和五年十一月二十六日

内閣書記官長 鈴木 富士 彌

法制局長官 川崎 卓吉

外務次官 吉田 茂

(各通)

內務次官	潮	惠之輔
大藏次官	河田	烈
陸軍次官	杉山	元
陸軍少將	石井	英橋
海軍次官	小林	躋造
海軍中將	米村	末喜
司法次官	小原	直
文部政務次官	野村	嘉六
文部次官	中川	健藏
文部參與官	大塚	唯男
文部省普通學務局長	篠原	英太郎
文部省圖書局長	芝田	徹心
東京帝國大學教授	藤岡	勝二
東京外國語學校長	長屋	順耳
氣象臺技師	岡田	武松
農林次官	松村	眞一郎

商工次官 田 島 勝 太 郎

遞信次官 今 井 田 清 德

鐵道次官 青 木 周 三

鐵道省運輸局長 久 保 田 敬 一

拓務次官候爵 小 村 欣 一

正三位勳一等 櫻 井 錠 二

從三位勳一等 鎌 田 榮 吉

正三位勳一等男爵 阪 谷 芳 郎

正三位勳一等 田 中 館 愛 橋

同 嘉 納 治 五 郎

同 上 田 萬 年

從三位勳二等 田 丸 卓 郎

正三位勳二等伯爵 林 博 太 郎

正四位勳三等 中 目 覺

正六位勳四等功五級 福 永 恭 助

臨時ローマ字調査會幹事長被仰付

文部省圖書局長 芝田 徹心

法制局參事官 森山 銳一

文部書記官 菊澤 季磨

(各 通)

文部省圖書事務官 山崎 犀二

東京文理科大學教授 保科 孝一

臨時ローマ字調査會幹事被仰付

臨時ローマ字調査會

在任(職) 年 月 日

氏 名

會 長

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和六年十二月十三日  
文部大臣 田 中 隆 三

自昭和六年十二月十三日  
至昭和九年三月十三日  
同 鳩 山 一 郎

自昭和九年三月十三日  
至昭和九年七月八日  
同 子爵 齋 藤 實

自昭和九年七月八日  
至昭和十一年二月八日  
同 松 田 源 治







至昭和十一年四月三十日	同	堀	内謙介
自昭和十一年六月二十六日	内務次官	潮	惠之輔
至昭和六年八月八日	同	次田大三郎	
自昭和六年九月十四日	同	河原田稼吉	
至昭和六年十二月十四日	同	潮	惠之輔
自昭和七年二月二十七日	同	丹羽七郎	
至昭和七年六月十八日	同	赤木朝治	
自昭和七年七月十八日	同	湯澤三千男	
至昭和九年六月三十一日	同	河田烈	
自昭和十年三月十三日	同	黑田英雄	
至昭和十一年四月三十日	大藏次官	藤井眞信	
自昭和十一年六月三十日	同	津島壽一	
至昭和十一年七月三十一日	同	川越文雄	

自昭和五年十一月二十六日 至昭和七年二月二十九日	陸軍次官	杉山元
自昭和七年三月十九日 至昭和七年八月八日	同	小磯國昭
自昭和七年九月十一日 至昭和九年八月一日	同	柳川平助
自昭和九年八月二十三日 至昭和十年九月二十一日	同	橋本虎之助
自昭和十年十月十一日 至昭和十一年三月二十三日	同	古莊幹郎
自昭和十一年四月三十日 至昭和十一年六月三十日	同	梅津美治郎
自昭和五年十一月二十六日 至昭和七年十二月二十八日	陸軍中將	石井英橋
自昭和七年十二月二十八日 至昭和十一年五月二十日	同	鈴木元長
自昭和十一年五月二十日 至昭和十一年六月三十日	陸軍少將	桑原四郎
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年十二月二十六日	海軍次官	小林躋造
自昭和六年十二月二十四日 至昭和七年六月一日	同	左近司政三
自昭和七年六月十八日 至昭和九年五月十日	同	藤田尙德
自昭和九年五月二十四日 至昭和十一年六月三十日	同	長谷川清

自昭和五年十一月二十六日

海軍中將

米村末喜

自昭和五年十二月十日

同

植村茂夫

自昭和七年十二月二十四日

同

小野彌一

自昭和十年十二月四日

海軍少將

太田垣富三郎

自昭和十一年六月三十日

司法次官

小原直

自昭和五年十一月二十六日

同

皆川治廣

自昭和七年七月十四日

同

金山季逸

自昭和九年七月三十一日

同

長島毅

自昭和十年五月二十二日

文部政務次官

野村嘉六

自昭和十一年六月三十日

同

横山金太郎

自昭和六年四月二十八日

同

安藤正純

自昭和七年二月十日

同

東郷實

自昭和七年六月十八日

同

添田敬一郎

自昭和九年七月十九日

同

至昭和十一年三月三十一日

自昭和十一年四月三十日 至昭和十二年六月三十日	同	山本厚三
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年十二月十七日	文部次官	中川健藏
自昭和七年二月十日 至昭和九年八月十一日	同	栗屋謙
自昭和九年八月三十一日 至昭和十一年六月九日	同	三邊長治
自昭和十一年六月三十一日 至昭和十一年六月三十日	同	河原春作
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年四月十五日	文部參與官	大塚唯男
自昭和六年四月二十八日 至昭和六年十二月十五日	同	工藤鐵男
自昭和七年二月十日 至昭和七年五月二十七日	文部參與官	山下谷次
自昭和七年六月十八日 至昭和九年七月十九日	同	石坂豐一
自昭和九年七月三十一日 至昭和十一年三月二十五日	同	山根儀重
自昭和十一年四月三十日 至昭和十一年六月三十日	同	作田高太郎
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年十二月十七日	文部省普通學務局長	篠原英太郎
自昭和七年二月十日 至昭和九年六月八日	同	武部欽一

自昭和九年六月二十三日 至昭和十年四月二日	同	下村壽一
自昭和十年四月十九日 至昭和十一年六月九日	同	河原春作
自昭和十一年六月三十一日 至昭和十一年六月三十日	同	菊池豐三郎
自昭和十一年六月二十六日 至昭和十一年六月三十日	文部省圖書局長	芝田徹心
自昭和十一年三月二十六日 至昭和十一年三月三十一日	東京帝國大學教授	藤岡勝二
自昭和十一年一月二十六日 至昭和十一年八月四日	東京外國語學校長	長屋順耳
自昭和十一年九月三十一日 至昭和十一年六月三十日	同	戶澤正保
自昭和十一年六月二十六日 至昭和十一年六月三十日	氣象臺技師	岡田武松
自昭和十一年十二月十四日 至昭和十一年十二月二十六日	農林次官	松村眞一郎
自昭和十一年七月十日 至昭和十一年七月三十日	同	石黒忠篤
自昭和十一年六月三十一日 至昭和十一年六月三十日	同	長瀬眞一
自昭和十一年十二月二十六日 至昭和十一年十二月三十一日	商工次官	田島勝太郎
自昭和十一年六月三十日 至昭和十一年六月三十日	同	吉野信次

自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年六月十九日	遞信次官	今井田清德
自昭和六年六月二十九日 至昭和十一年一月十一日	同	大橋八郎
自昭和十一年一月十六日 至昭和十一年六月三十日	同	富安謙次
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年九月十二日	鐵道次官	青木周三
自昭和六年十月五日 至昭和九年八月四日	同	久保田敬一
自昭和九年八月三十日 至昭和十一年六月三十日	同	喜安健次郎
自昭和五年十一月二十六日 至昭和六年六月十二日	鐵道省運輸局長	久保田敬一
自昭和七年一月二十五日 至昭和七年十月二十日	同	中山隆吉
自昭和七年二月十一日 至昭和九年六月一日	同	日淺寬
自昭和九年六月十六日 至昭和九年八月四日	同	前田穰
自昭和九年八月三十日 至昭和十一年六月三十日	同	新井堯爾
自昭和五年十一月二十六日 至昭和五年十二月二十九日	拓務次官	侯爵小村欣一
自昭和六年一月二十二日 至昭和七年五月二十六日	同	堀切善次郎





臨時委員

自昭和十一年六月三十日	京都帝國大學教授	新	村	出
同	正四位勳三等	岡	倉	由
自昭和十一年六月三十日	勳四等	門	野	幾
			之	進

自昭和十一年六月三十日	從三位勳三等	伯爵	二	荒	芳	德
同	正四位勳三等	神	保			格

自昭和十一年六月二十三日	從四位勳三等	末	廣	嚴	太	郎
--------------	--------	---	---	---	---	---

自昭和十一年六月三十日	從四位勳四等	櫻	根	孝	之	進
-------------	--------	---	---	---	---	---

同	正七位	宮	崎	靜	二	
---	-----	---	---	---	---	--

同		菊	澤	季	生	
---	--	---	---	---	---	--

自昭和十一年六月三十日	正三位勳二等	松	村	眞	一	郎
-------------	--------	---	---	---	---	---

自昭和十一年六月三十日	從五位	世	良	琢	磨	
-------------	-----	---	---	---	---	--

幹事長

自昭和十一年六月二十六日	文部省圖書局長	芝	田	徹	心	
--------------	---------	---	---	---	---	--

幹事

書記

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和十一年六月三十日

法制局參事官

森山銳一

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和九年六月八日

文部書記官

菊澤季鷹

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和七年十月十五日

文部省圖書事務官

山崎犀二

自昭和七年十月三十一日  
至昭和十一年六月三十日

文部書記官

谷原義一

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和十一年六月三十日

東京文理科大學教授

保科孝一

自昭和五年十一月二十六日  
至昭和十一年六月三十日

文部屬

阿部隆介

同

同

堀平泰

同

同

水平勳

同

湯澤幸吉郎

○第一次主査委員會

委員長

栗屋謙

委員

芝田徹心

幹事

書記

○第二次主査委員會

委員長

委員

佐伯功介

神保格

宮崎靜二

菊澤季生

新村出

岡倉由三郎

谷原義一

保科孝一

水平勳

三邊長治

芝田徹心

新村出

岡倉由三郎

佐伯功介

神保格

宮崎靜二

菊澤季生

幹事 谷原義一

保科孝一

書記 水平勳

○第三次主査委員會

委員長 林博太

委員 大橋八郎

添田敬一郎

三邊長治

新村出

戶澤正保

吉野信次

中目覺

幹事長

岡倉由三郎

幹事

芝田徹心

森山銳一

谷原義一

保科孝一

書記

水平勳

内閣訓令第三號（昭二・九・二二官報）

各官廳

國語ノローマ字綴方ハ從來區々ニシテ、其ノ統一ヲ缺キ使用上不便尠カラズ、之ヲ統一スルコトハ教育上、學術上將又國際關係其ノ他ヨリ見テ、極メテ必要ナルコトト信ズ。仍テ自今左ノ通ローマ字綴方ヲ統一セントス。各官廳ニ於テハ漸次之ガ實行ヲ期スベシ。

昭和十二年九月二十一日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿

一、國語ノローマ字綴方ハ左表ニ依ル（表略）

